

(6) 東 海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

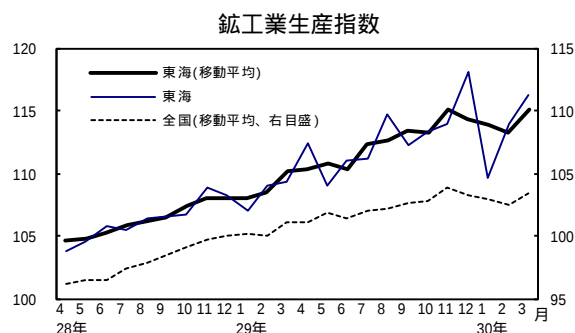
前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 2 月)	今回 (平成 30 年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	緩やかに増加しているものの、一服感	↓
住宅建設	おおむね横ばい	減少	↓

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加しているものの、一服感がみられる。

1 - 3 月期には、「輸送機械」は、高水準で推移しているものの、国内向け乗用車の新型車効果が一巡したこと等により、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、海外向けの金属工作機械が好調であることから増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	35.2	4.8	▲3.5	▲12.5	7.7	0.5
電子デバ、電気・情報通信	19.7	0.5	▲1.8	▲7.1	3.4	5.4
石油・石炭製品、化学、プラ製品	14.9	0.3	▲1.4	▲2.7	▲0.8	3.0
汎・生産・業務用機械	8.9	1.6	2.6	▲3.1	5.2	▲0.7
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	0.8	▲0.3	▲2.2	1.3	1.1
鉱工業	100.0	2.2	▲1.6	▲7.1	3.9	2.0

(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2 . 1 - 3 月期、3月は速報値。

(備考) 1 . 22 年 = 100、季節調整値、東海の最新月は速報値。

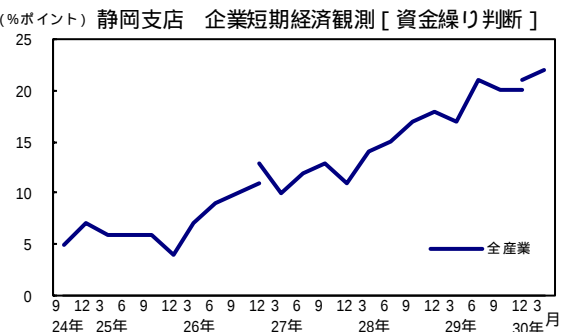
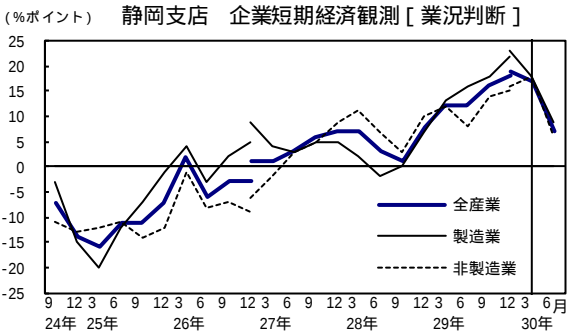
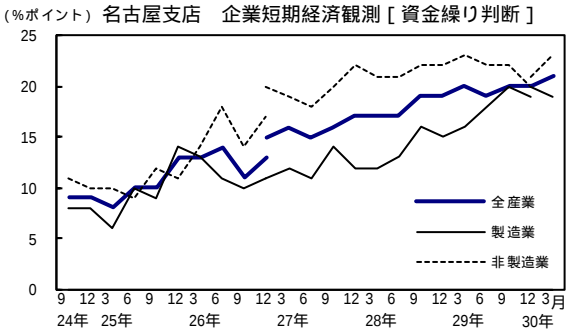
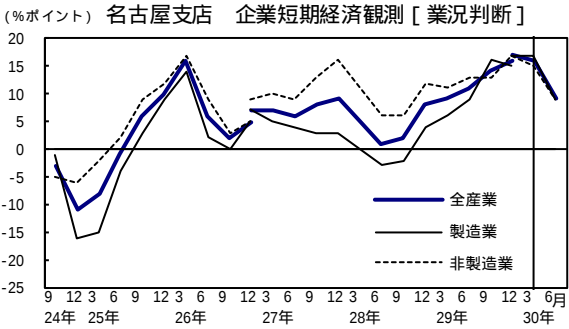
2 . 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3 . 東海は内閣府にて算出。

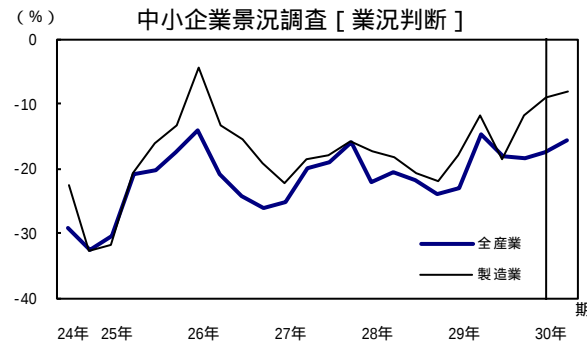
(2) 日銀短観における名古屋支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
静岡支店管内の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

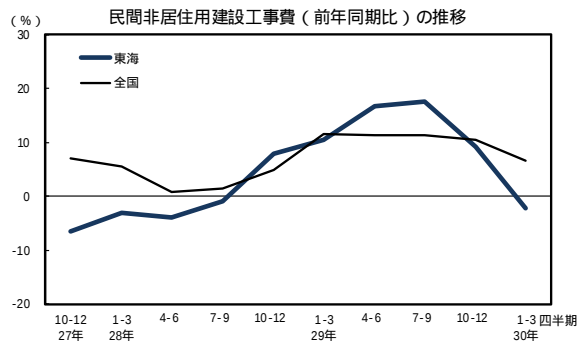


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「4月は受注量が少ない傾向があるが、前年と比べても更に少ない(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて減少している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建築統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績見込み	30年度概価
全産業		
名古屋支店	9.9	8.1
静岡支店	10.4 (▲2.1)	0.9
製造業		
名古屋支店	10.8	7.3
静岡支店	16.4 (▲4.5)	4.4
非製造業		
名古屋支店	9.0	9.1
静岡支店	3.5 (1.1)	▲3.4

(備考) 1. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. ()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.5%増、2月は同0.8%減、3月は同1.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、高額品の動きが継続したものの、衣料品や食料品が振るわなかったことから、前年を下回った。2月は、高額品や飲食料品に動きがみられたものの、春物衣料が不調だったことから、前年を下回った。3月は、衣料品の不振が継続していることに加え、高額品等も振るわなかったことから、前年を下回った。

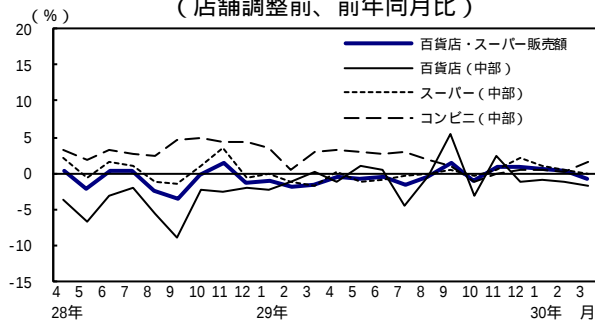
スーパーは、1 - 3月期は、衣料品が振るわなかったものの、飲食料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

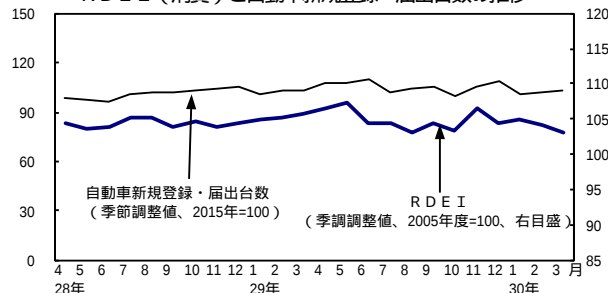
「広告を出しても問合せが少ない。低単価の物件はまだ良いが、高価格の物件は影響が大きい (住宅販売会社)」など「悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等

(店舗調整前、前年同月比)



RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	▲0.7	0.5	▲0.8	▲1.1
百貨店・スーパー(*2)	0.0	0.6	0.3	▲0.8
百貨店(*3)	▲1.4	▲1.0	▲1.2	▲1.8
スーパー(*3)	0.6	1.1	0.5	0.0
コンビニ(*3)	0.8	0.4	0.3	1.7
乗用車(*4)	▲1.4	0.5	▲1.6	▲2.5
(季節調整値)(*4)	▲2.7	▲7.7	1.2	0.9

(備考) 1. 季節調整前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

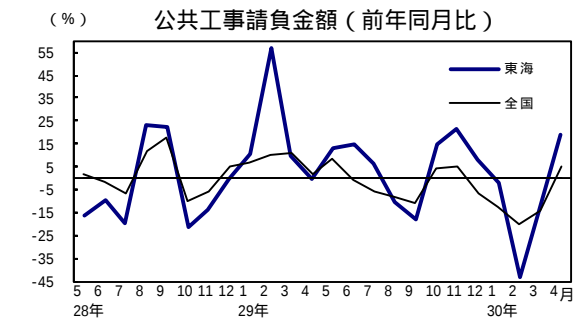
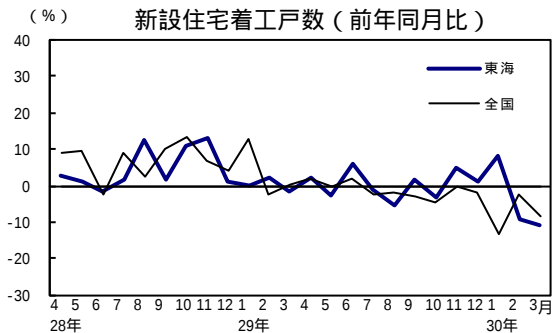
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部

(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

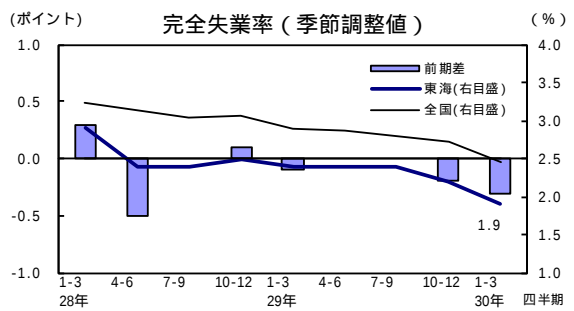
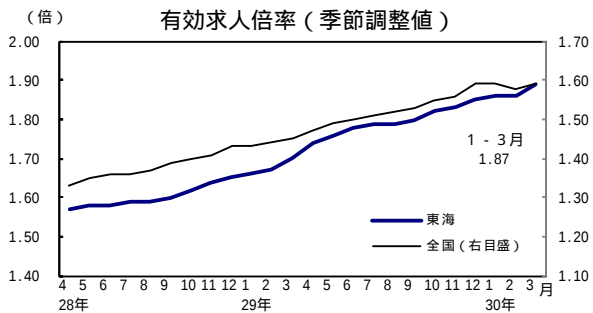
4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

- (2) 住宅建設は前年に比べて減少している。
持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。
- (3) 公共投資は 29 年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

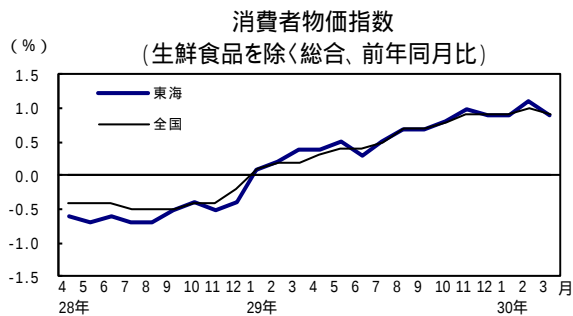


景気ウォッチャー調査 (4 月調査結果) [雇用関連 (現状)]
「 求人の総量は潤沢にあるが、正社員求人は伸びていない。足元での新規求職者数は、高年齢求職者の増加を背景に、前年同期に比べて横ばい若しくは微増の範囲内にある (職業安定所) 」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の増減幅が同水準となっている。

企業倒産

	(件、億円、 %)				
	29年4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	30年1 - 3月	30年4月
倒産件数 (前年比)	264 ▲2.6	253 0.4	271 3.4	273 14.7	80 ▲5.9
負債総額 (前年比)	419 ▲21.6	419 28.5	377 ▲12.6	481 12.4	95 ▲38.3



(6) 東海

